

## 第4回遠州広域行政推進会議 議事概要

日時：平成25年1月17日（木）午後3時00分から午後4時45分

場所：森町文化会館 2階 小ホール

参加：浜松市長、磐田市長、掛川市長、袋井市副市長、湖西市長、御前崎市長、  
菊川市副市長、牧之原市長、森町長

### 1 第3回遠州広域行政推進会議後の取組について

事務局が資料を基に報告を行った。

#### 【主な意見】

<森町長>

4月から約10ヶ月たつが、ようやく道に関する問い合わせは少なくなってきており、ある程度看板の設置などが中日本も我々も取り組んだ結果として浸透してきたイメージは持っている。

### 2 三遠南信地域の連携について

事務局が資料を基に報告を行い、以下の事項について合意した。

#### 【合意事項】

・遠州広域行政推進会議の枠組みでSENAへ加入する方向で検討を進める。

#### 【主な意見】

<掛川市長>

ずいぶん前に出た話で、塩の道サミットに通じているものがある。文化・観光振興についても良いと思う。

<森町長>

前提は、西部拠点地域整備推進協議会を解散することになると、SENAに入っていく方がいいが、解散したときに現在入っている5市町についてもどうするかという話になる。既存の組織としては遠州会議があるので遠州会議として参加しようでないかという話になると思う。参加する参加しないのではなく遠州会議として参加しないかという話になると思うが。

<浜松市長>

方向的にはそういうこと。

<牧之原市長>

なぜ今こういう会議に入れてもらっているかといえば重要なことは御前崎港があることである。御前崎港を活用していただくというのは、西部の皆さんと経済的にも文化的にも良いことである。最近空港も出来たので空港も含めて物流・人の動きがあるので、ぜひお仲間に入れていただければと思う。姿勢的には東ともやっていければと思う。

<御前崎市長>

牧之原市が言ったように御前崎港があり、中部は清水港があるという点で、御前崎は西を向いて、御前崎港は東の玄関口という立場でお付き合いさせていただければと今まで進めてきた。

<菊川市副市長>

菊川も元々、西部圏で経済的にも西を向いてやってきたのでぜひ一緒にさせていたきたい。これからの広域行政は大切なので一緒にやればありがたい。塩の道の話も出たが、その関係で菊川も小谷村と友好関係を結んでおり、災害協定もある。そういう意味ではSENAへ参加することによって産業の面もあるし、クラウドのこともあるのでぜひ参加させていただけたらと思う。

<浜松市長>

基本的な方向性としては遠州会議の枠組みで参加をさせていただくことにする。

### 3. 広域的な職員研修について

事務局が資料を基に報告を行い、以下の事項について合意した。

#### 【合意事項】

・広域的な職員研修について内容及び方法等を検討するとともに、自治体間の職員交流についても次回以降のテーマとして検討を進める。

#### 【主な意見】

<菊川市副市長>

御前崎市、牧之原市、菊川市の3市で平成24年度から3市による広域研修計画を立ち上げた。3市から10名ずつくらい参加している。ちょうどやり始めたところである。もちろん浜松市でやる研修にも参加させてもらえれば良いと思うが、スタートしたばかりなので3市で相談させていただければと思う。

<森町長>

森町は全職員で150名。人事異動や職員の担当職務の問題で3年で同一職員というのはとても派遣できない。森町としては、テーマによってちょっと勉強したいからオブザーバーとして参加させてもらうなどの方法をとっていただけたらありがたい。

<袋井市副市長>

合併前から掛川以西で合同研修をやっていた。今回、浜松市の法務研修に参加させてもらっているが、職員研修をして職員間のネットワークを広げればと思う。こういったスケールメリットは良いと思う。

<浜松市長>

それぞれの自治体によっても研修をやっているようなので、ニーズや要望を聞いてカリキュラムの作り方や参加の仕方など、もっとフレキシブルに出来るようにしていけば良いと思う。そうすれば参加しやすくなる。

<湖西市長>

参加するしないに関わらず、浜松市は独自で研修をやっているが、これからはやるのであれば定例的に声をかけるメンバーにいれてもらいたい。出るときは応分の負担をすれば良いと思う。出るときは出る、出ないときは出ないで良いと思う。

<掛川市長>

中東遠の47万の括りの中で広域行政を展開している中では、もっと職員間の交流が必要である。考え方が違うと思うが、掛川と袋井で今新しい病院を作ろうとしているが病院文化が違う。首長によって違うのかもしれないが、広域的な認識を職員にもつけてもらったらいと思う。

<磐田市長>

私も掛川市長の言うことには賛成。過去の歴史では中東遠は恵まれた地域で今までなんとかやってこれた。しかし「3月11日」が大きな転換期であったと思う。顔の見える関係をもっと深めておかないといざというときの防波堤にはならない。ウチは隣に浜松市という政令市がある。政令市の職員の体験をやれるとか、中東遠のそれぞれをもっと知るということなど市町間の職員交流の再構築をしなければと思っている。国や県などの派遣はどこもやっている。

<浜松市長>

研修については、またカリキュラムや参加の仕方など工夫して提案させてもらう。延長線上として職員交流も提案いただいたので、どういうことが考えられるか次回以降にテーマとしてやりたい。

#### 4. 再生可能エネルギーを活用した取組状況について

事務局が資料を基に説明を行った。(各市町の取組事例の紹介と意見交換のみ)

##### 【主な意見】

<掛川市長>

掛川市は私の公約で、全世帯に設置するとして、当面は5年間で2割達成するまではやる。だんだん買い取り価格が下がるので、再生可能エネルギーを10%くらいにしたい。風力については、今10基あるが、これを新しく20基にしたということなので支援をしながら増やしたいと思っている。

<浜松市長>

国会議員のときにエネルギーの専門だったが、国はまだエネルギーをどうしようという方針が出ていない。方向性としては再生可能エネルギーの利用率を高めていくということとエネルギーの量産化で間違いないと思う。この部分は自治体が一番取り組める。再生可能エネルギーは風力と太陽光が現実的に取り組める。風力はどうしても設置が難しい。低周波や環境の問題で地元の同意が得られにくい。一番現実的なのは太陽光。どれだけ普及させていくかということだと思う。個人住宅への設置も合わせると馬鹿にならない。

2,500件屋根につけてもらうと10メガワットくらい。清水に設置を予定している大きなメガソーラーで8メガワットくらい。2,500件の家に太陽光発電の設備を作ってもらうと巨大なメガソーラーを毎年1基ずつ作るのと同じくらいの効果がある。年に1つメガソーラーを作るという意気込みで取り組んでいる。当面はこの方針でやっていく。

#### 5 次回開催について

- ・5月～6月を目安に、掛川市にて実施